平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	11	ー	14

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	学校図書整備事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		教育総務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	横田和幸		氏名	大和良成
事業の概要	学校教育に欠かせない基礎的設備である学校図書館の図書について、教育課程において必要とされ、かつ時代にあった図書を計画的に配備し、児童・生徒の健全な教養を育成する。					

全体計画	/単年度繰返	
（平成 20 年度～ 24 年度）		
事業費	国・道支出金	千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	8,400 千円
	事業費計	8,400 千円

実施方法	■ 直営	民間委託	その他（　　）
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業	非登載事業	優先度 B

事業の位置付け			
政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
基本施策	#	学校教育の充実	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
事務事業の種類	■	自治事務	法定受託事務
その他計画・根拠等	新学校図書館図書整備5カ年計画		

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	1,567 千円	1,602 千円	1,515 千円	1,513 千円	1,550 千円
	合計	1,567 千円	1,602 千円	1,515 千円	1,513 千円	1,550 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	児童・生徒・教職員	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	児童・生徒の発達段階に見合う継続性ある図書整備が必要である。	計画的な図書整備を行う学校数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	学校図書館の図書の充実と図書に対する児童・生徒の読書意欲等の促進	① 町内小中学校数	目標年度	平成23年度
			目標値	6 校
			実績値	6 校
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	児童・生徒の健全な教養を育成するとともに、自ら学ぶ意欲の向上が図られる。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
図書備品購入費の配当	国の定める基準に基づく図書購入費の学校への配当。
図書の購入	学校からの購入申請について内容審査の上承認し、学校が購入。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	■ 義務的なもの □ 全部 ■ 一部	学校図書は教育課程において、必須とされるものであり、教育内容・教育環境の充実のため、学校図書の購入、更新は必要である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■ 達成 □ ほぼ達成 □ 下回る	教育課程において必要な図書をもって、常に変化する社会情勢に適応した図書の配備により、児童生徒の健全な教養の育成につながっている。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■ 事業費抑制 □ 人員削減 □ 時間短縮・作業軽減 □ その他	町図書館との連携により、重複した図書購入の防止等に努めている。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □ 受益者負担がある □ 受益者負担がない □ 受益が一部に偏る ■ その他	児童生徒に必要な図書整備を行っており、図書利用の公平性を確保している。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
学校図書の整備により児童生徒の健全な教養の育成が図られた。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
教材課程において必要とされる図書とともに時代にあった図書を計画的に配備することが、児童生徒の健全な教養の育成につながるため、現状維持による継続が必要である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）